

子どもを送り出した
保護者からは
こんな感想が
寄せられています



「帰ってきた子どもの目の輝きが違っていました」
「夢中になって体験学習してきた経験を話す姿に
驚きました」

「地元のおじいちゃん、おばあちゃんと接して、子
どもの言葉遣いが丁寧になり、家の手伝いもよく
するようになりました」

「現地で様々なものを口にして、食べものの好き
嫌いがなくなってきたようです」

「民泊先の農家と家族ぐるみのつきあいはじま
り、家族で現地を訪問しました」

「訪問先が心のより所となり、現地の天気やニュ
ースをいつも気にするようになりました」



こんな教育的効果が現れています

◆ 学ぶ意欲や自立心が育まれる

農林漁家に滞在し、豊かな自然の中で多くの体験を重ねることで、児童の好奇心や学ぶ意欲が生まれ、学校教育が目指す「生きる力」につながります。また、親元から一定期間離れ、家事や食事の手伝いをし、農林漁業体験を行うことで、子どもたちが一段とたくましく成長します。

◆ 食の大切さを学べる

生産や収穫活動を自ら体験することで、食べ物の大切さを再認識する「食育」につながり、好き嫌いも軽減されます。また、森林・水・食料・環境などを支える農山漁村の営みと日常生活のつながりから、命の根源を知ることができます。

◆ 思いやりの心や豊かな人間性・社会性などが育まれる

仲間との長期の宿泊体験や農林漁業体験等を通じて、学校生活では発揮されない互いの新たな一面を知ることができるとともに、共同生活や共同作業により、思いやりの心や豊かな人間性・社会性が育まれます。

◆ 社会規範や生活技術が身に付く

農林漁家での民泊や地域住民との交流活動など、教師や親以外の幅広い世代とのふれあいが、子どもたちのコミュニケーション能力を高めるとともに、社会規範や生活技術や知恵などを身につけることに役立ちます。



体験活動を経験して、
子どもたちが
確かに変わった!!

